

## 【事例 H29-73】 島根県

## ぷらっと事業

【概要】 飯南町に在住される学校に行きづらい・職場に馴染めないなど、様々な要因で家から出にくい状況にある方やその家族に気軽に出掛けていただける憩いの場を提供することで、社会生活への復帰を図るためのステップアップを目的として、2015年度から飯南町社会福祉協議会を事業主体に事業を実施し、引きこもりの解消・社会生活復帰を応援している。

## 【大綱の分類】

- 5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
- 7. 社会全体の自殺リスクを低下させる
- 10. 民間団体との連携を強化する
- 11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

## 【政策パッケージ分類】

- 基本4-1) 居場所づくり活動
- 重点1-1) いじめを苦しめた子どもの自殺防止
- 重点1-2) 若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒等への支援の充実
- 重点1-5) 若者自身が身近な相談者になるための取組

【事業実施年度】 2015年度～2019年度

【事業予算】 879,000円（2018年度）

## 【利 点】

- ▼家から外出するきっかけづくり→外出の習慣化
- ▼自己肯定感を育み、自信と気力を取り戻す“心の居場所”の提供
- ▼同じ境遇の方が集うことによる安心できる居場所の提供
- ▼悩みを共有でき、交流による孤独感の解消、仲間意識の醸成
- ▼家族・支援者を当事者の目線で支援する、安心して相談できる窓口機能
- ▼その人の要望に合わせた活動の実施（あくまでも本人の希望を重視）

## 【実施に至るまで】

## 背景・必要性・経緯

- ① 町内において高齢者支援は充実しているが、自宅から出にくい状況にある方々（子どもや若者）への支援状況が乏しく気になった
- ② 町内において出にくい状況にある方々や家族が気軽に出かける場所がなかった
- ③ 当事者の目線で理解し、相談にのることができる経験者が2名いた
- ④ 社会福祉協議会と地域福祉課でのこれまでの地域訪問活動の状況把握より、引きこもり支援の必要性とその対策として町内の『居場所作り』ではないかという結論に至った
- ⑤ 居場所なら作ることが可能と取り組みを行った

## 事前調査・周知

- ① 引きこもり状況の把握として全戸訪問を行った
- ② 町が実施している「子ども・若者総合相談窓口」の状況確認
- ③ 他の市町村のひきこもり支援の状況の把握、相談場所への視察
- ④ 設置場所としてあまり人目につかない建物を探す
- ⑤ 全戸訪問にて各戸へのチラシ配布、説明で周知の実施
- ⑥ 関係機関へも訪問説明周知
- ⑦ ケーブルテレビにて事前放送、公共施設へのポスター掲示

**環境整備・取組内容**

▼環境整備（設置場所）

- ・職員が在住せず、社協の敷地内の保健センターの一室を借りる
- ・居場所は自宅の部屋と同じような設定（漫画、ゲーム、フィギア、こたつ等あり）で安心できる空間づくり

▼環境整備（サポーター・支援者）

- ・自身のお子さん（保護者）が小学校から不登校の経験をもち、あらゆるところに相談に向き、つらい時期、子どもとともに立ち直っていく経験をされた2名にお願いする
- ・2名はその間、たくさんの学習をされてきたため、支援の取り組みの仕方はお任せした

▼実施後の経緯

- ① 2015年の開設から2年間は毎週月曜日（14時～17時）実施。
- ② 増回の必要性を感じていた2年目後半に町議会で取り上げられ、町から財政支援を受けることになる。
- ③ 2017年度からは、（月、水）14時～17時、（金）9時～17時の週3回の実施とする。

▼実施内容

※プログラムはなく、あくまでもその日の活動内容は当事者本位で決定する。（活動メニューはすべてサポーターからの提案ではない。）

- ・家族に対しては傾聴、当事者に対しては傾聴、ジグソーパズル、トランプ、ゲーム、切絵、卓球、調理、森林浴、カラオケ、各自の希望に応じた活動実施
- ・手芸が得意な人が小物づくりを行い、結果フリーマーケットに3回出店実施。
- ・2016年度からは社会につながるワンステップとして、働く喜び、感謝される喜びを感じてもらいたいと『ワンコインボランティア』（1時間500円）を開始。社協施設内の車椅子の掃除、窓ふき、寄せ植え等の仕事を希望によりおこなっている。
- ・サポーター2名、社協地域福祉課職員でアウトリーチ活動を実施し、出かけてもらえない方々の家への訪問。会ってもらえない方々へはチラシを置く。また、来所されない保護者に町内で出会ったときに話を聞くこともある。

**【成果】**

▼2018年度実績、延べ226名利用

- ▼家に引きこもっていた若者がふらっと事業を利用し始め、外出する習慣が付き社会生活が送れるようになった。（就業・復学に繋がった事例あり。⇒5名）
- ▼引きこもりに悩む本人・家族の相談窓口として定着してきており、保健師や就労支援事業所相談員等とケース会議（不定期で年3～4回程度）を行えるようになった。
- ▼ワンコインボランティアにしばらく従事していただいた方が、社協のパート雇用（掃除週1回現在も継続）となった方1名、ほか2名は、関連機関や家族との連携により就職した。高校の通信教育を始めた方も1名。ただし、就職されかけたが難しくなり断念し、体調により居場所にも参加できないため、現在はサポーターが毎月訪問し、お話を聞いているという方も1名いる。
- ▼悩んでおられるご家族には身近な場所があり、支援者が自ら体験者であることが大変心強いと感じる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
保護者	2	1	2	1	2	2	4	3	6
当事者	13	9	10	13	13	7	12	10	17
その他	3	3	1	5	3	3	2	4	4

	1月	2月	3月	合計
保護者	3	5	7	38
当事者	9	15	14	142
その他	4	7	7	46

年度開設日数	来所者内訳		1日平均	その他来所（実数） 保健師、主任児童委員、 以前の当事者、一般の方等
	保護者（実数）	当事者（実数）		
H27（44日）	31（5）	38（2）	1.56人	9（3）
H28（49日）	17（5）	125（3）	2.58人	20（3）
H29（143日）	38（12）	154（5）	1.34人	48（23）
H30（139日）	38（6）	142（6）	1.29人	46（17）
計 375日	延べ124人	延べ459人	1.55人	延べ123人

【補 足】

**相談場所「ぶらっと」から開催のお知らせ**

平成29年4月3日から

毎週 月曜日 14:00～17:00

水曜日 14:00～17:00

金曜日 9:00～17:00

週3回になりました！

予約は不要です  
お好きなとき  
におかけ下さい

**学校へ行きづらい、職場になじめない、  
家から出られないことで悩んでいませんか？  
お子さんのことで、悩んでいませんか？**

お話しをお聞きするのは、長年子どもの不登校や引きこもりに関わって  
きている方です。ご相談内容については、プライバシーを守り秘密厳守  
ですのでご安心ください。

**場所: 来島保健センター**  
(社会福祉協議会向かい)

**ワンコインボランティアのお誘い!!**

お手伝いして下さる方を募集しています！  
仕事はご希望される内容を選んでいただき、  
お礼は1時間ワンコイン (500) です。

お問い合わせは『ぶらっと』  
社協地域福祉課 (吾郷まで)  
TEL: 76-2170

活動場所 社会福祉協議会周辺  
日時 (月、水) 午後2時～5時  
(金) 午前9時～午後5時

仕事内容

1. 洗車
2. 車いすの掃除
3. 草取り
4. 窓拭き、掃除
5. 寄せ植え
6. その他

【課 題】

- ・ 広報 PR・声掛けにより気軽に遊びに来ていただける利用者がある一方、呼びかけに応じてもらえず利用に繋がっていかない方もいる。身近な存在である家族や支援者との連絡を密にしつつ医師・保健師といった専門職とも連携する必要がある。

【事業種別】	居場所づくり
【準備期間】	200 日
【人 数】	1 名
【人口規模】	4,732 人
【財政規模】	8,586,796,000 円
【自治体負担率】	50%
【事業対象】	引きこもりの方と、その家族や支援者
【支援対象】	引きこもりの方と、その家族や支援者
【委託の有無】	無 (社会福祉協議会の事業に町が補助金を交付)
【実施主体・問合せ先】	飯南町社会福祉協議会 TEL: 0854 (76) 2170 Mail: y-agou@iinanshakyo.com
	飯南町保健福祉課 TEL: 0854 (72) 1770 Mail: honma-yasuhiro@re.iinan.jp